

地域に定着したイベントの 取り組みについて

脇野沢営林署 ○収 穫 係 山口 和
総務課長 きだち こうじ
木立 孝司

1 はじめに

近年、国有林に対する地域のニーズは多様化の傾向があり、国有林野事業の抜本的改革の中で、今後は木材生産機能重視から公益的機能重視へと方向転換を図っていく時期に、営林署も地域の一員としてより一層それらに対応していかなければならないと考える。

当営林署のある脇野沢村は漁業と観光の村であり、観光施設として農村公園や村の沖合に浮かぶ鯛島の整備を昨年度から行っている。今年度は青森県文化観光立県宣言にあわせ、その整備された施設のPRも兼ねて、村では様々なイベントが開催され、営林署も地域の一員としてそれらに積極的に参加協力してきている。



写-1 愛宕山から鯛島を望む

また営林署主催のイベントとして、村や観光協会とタイアップした植樹祭や森林浴ウォーク大会等も実施している。

ここではこれら参加・協力・実施してきたイベントを一つひとつ取り上げ、さらに脇野沢村産業祭りにおいて、当営林署が毎年主催し取り組んでいる『与作選手権大会』について行ったアンケート調査をもとに、今後のよりよいイベントへの取り組み方について考察してみる。

2 取り組み状況

ここで、平成10年度4月からのイベントへの取り組み状況を紹介する。

(1) 桜祭り開会パレード(4月28日(火) 出席者2名)

脇野沢村観光協会が主催し、毎年行っている愛宕山公園を中心とした桜祭りのPRパレードであるが、春の山火事危険期でもあることから、消防分署共々火災予防のPRも兼ね参加し、村内一円をパレードした。

(2) 植樹祭 (6月6日 (土) 出席者12名)

例年は営林署単独で実施してきたが、今年は村で農村公園等の開設記念事業も兼ね、村と共催の形で実施した。植樹会場は村有林伐採跡地で、営林署では植樹したヒバの苗木を提供し、唐鍬等用具類の準備や植樹方法の指導等を実施するとともに、緑の大切さを訴え国有林をPRした。



写-2 植樹指導風景

(3) クリーン作戦 (7月26日 (日) 参加者4名)

本格的な観光シーズンを前に村で主催している村民参加による村内の清掃活動であり、営林署も地域の一員であるということから、海岸等の清掃を任せられ実施した。

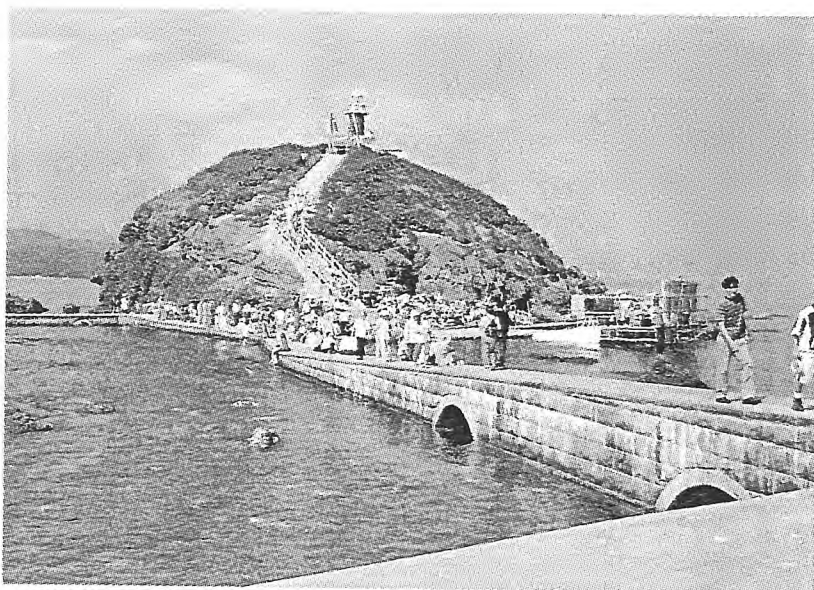


写-3 清掃風景

(4) 鯛島ビッグコンサート (8月9日 (日) 出席者2名)

補修工事の竣工式を兼ね、整備された鯛島を新たな観光スポットとしてPRしようと、商工会・観光協会が中心となり、村内有志によって組織された実行委員会により実施された。開催までに三度の実行委員会が開催され、営林署長名で実行委員に加わっており、企画運営にも携わっている。当日は来場者の誘導等の業務を行った。

写-4 コンサート
会場



(5) 夏祭り開会パレード (8月10日(月) 出席者2名)

桜祭りと同様であるが、例年であれば夏祭り期間中のサマーフェスティバル(産業祭りの夏版といったところ)において一署一品コーナーを設けているのでそのPRも兼ねて参加している。

(6) 24時間テレビ(8月23日(日) 出演者3名ほか職員一同)

日本テレビが毎年制作している『24時間テレビ 愛は地球を救う』の中で、青森放送が企画した『日本全国ふるさと企画』において、今年の産業祭りの中で行われた『与作選手権大会』決勝で漁協チームと戦い惜しくも敗れた営林署チームにスポットを当て、雪辱に立ち向かう姿を紹介した。



写-5 撮影風景

事前の取材の撮影場所となったヒバ施業指標林のPRも行い、営林署では道具類の準備から丸太の用意まで全面的に協力した。

(7) 森林浴ウォーク大会(10月18日(日) 出席者10名)

今年で11回目を数えるこの大会は営林署と脇野沢村観光協会の共催で、毎年脇野沢村内の国有林内において実施されており、実施箇所も毎年変えている。今年は源藤城国有林内にあるヒバ施業指標林を歩くこととし、新聞・ラジオでも指標林について

PRしたところである。散策中は簡単な森林教室と樹木当てクイズを行い、その後職員の指導による竹鉄砲、ヤジロベエ作りを実施し子供たちに喜ばれている。また参加者全員には職員手作りの『完歩証』を配布した。



写-6 工作指導風景

(8) 産業祭り (11月8日(日) 出席者15名)

毎年11月の第1日曜日に開催され、営林署も実行委員として祭りの企画運営に携わっている。一署一品の出店と同時にナメコ汁のサービス、年輪当てクイズも実施しており、当署が主催する『与作選手権大会』は今年で12回目を数え、脇野沢村産業祭りのメインイベントとなってい



写-7 『与作選手権大会』

る。優勝、準優勝、三位までは、木製の楯とメダルを、ユーモア賞とハッスル賞にはそれぞれメダルを贈っている。また、子供の与作選手権大会も昨年から実施している。

(9) むらおこしラーメンサミット (11月15日(日) 協力者1名)

脇野沢村商工会の主催で、県内11のオリジナルラーメンを開発販売している町村が一堂に会し、販路の拡大・地域振興等について話し合い、会場を屋台村に見立て、各地のラーメンを廉価で振る舞った。これも鯛島ビッグコンサートと同様、委員として企画・立案・運営にも携わっており、当日は後かたづけや屋台コーナーの担当にあたった。

写－8 会場風景



これらイベントに参加協力している中で特筆すべきは、村や商工会、観光協会等が主催するイベントにただ参加するだけでなく、企画・運営にまで携わっているということである。これは小さな村ならではの事だと思われるが、イベントを運営する上で地域ぐるみで実施していくという空気があり、このような雰囲気や大事にして今後のイベントにも取り組んでいきたい。

3 脇野沢村産業祭り

これまで参加・協力・実施してきた数々のイベントを紹介したが、その中で特に地域と一体となって取り組んできた「脇野沢村産業祭り」の実施状況について詳しく紹介する。

まず祭りの企画・立案・運営については、村内各団体が運営委員として当たっており、従来から営林署も委員として、次長・総務課長が委員会にも出席している。その中で、12年前に営林署で立案し取り組んできた『与作選手権大会』を今日まで継続してきている。また昨年からは、これも営林署からの立案で『子供与作選手権大会』を実施している。



写－9 『子供与作選手権大会』

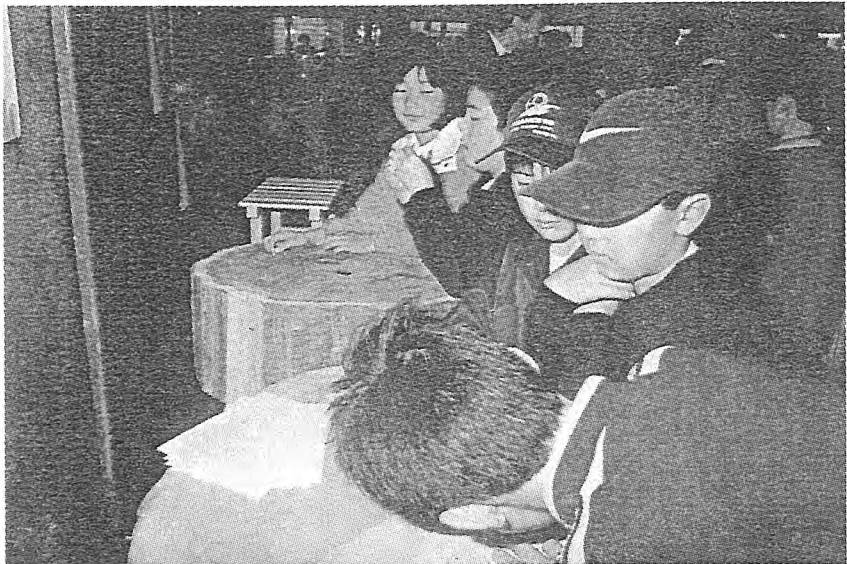
産業祭りの中での
イベントとして、漁
協主催によるホタテ
の殻から身をむく早
さを競う『ホタテほ

写-10 年輪当て

クイズ

やき大会』や『大抽
選会』などがあるが、
今では『与作選手権
大会』がメインイベ
ントとしてすっかり
定着している状況で
ある。

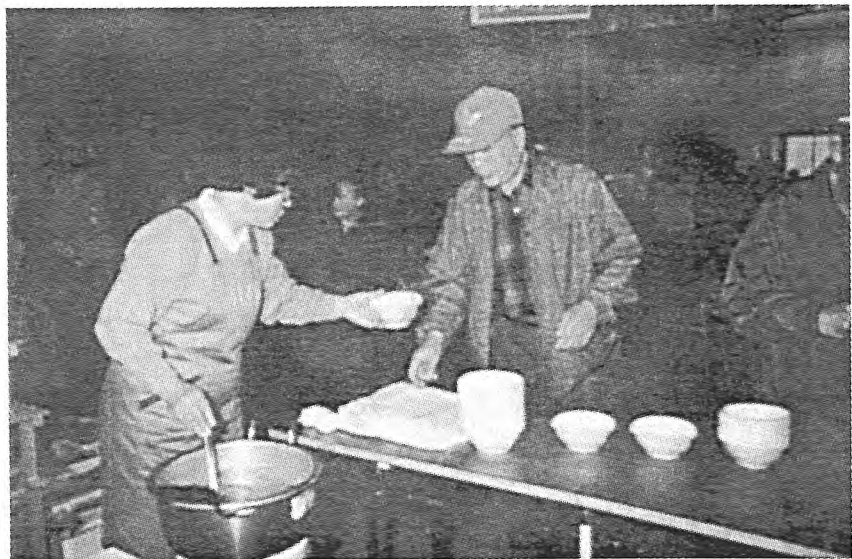
祭り当日は『与作
選手権大会』のほか



写-11 ナメコ汁の

サービス

に、会場内の営林署
コーナーにおいて一
署一品木工品の展示
即売と同時にヒバと
センノキの『年輪当
てクイズ』を実施し
ている。また会場外
のテントでは、菌付
けほだ木・手柴の販



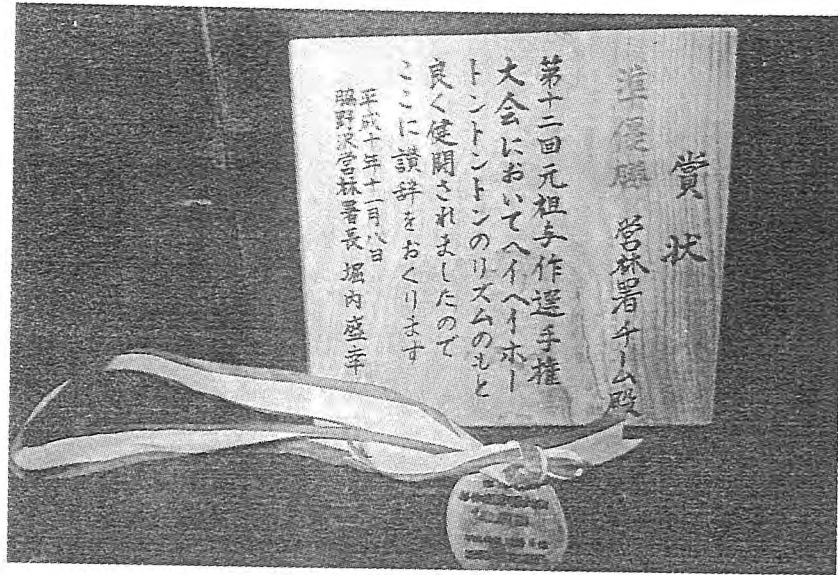
写-12 奮闘する

県信用チーム

売を実施し村民から
好評を得ている。そ
のほか営林署職員手
製のナメコ汁の無料
サービスなども毎年行っている。



さてメインイベントである『与作選手権大会』であるが、1チーム3名で必ず女性を1名入れる。競技開始一分間は女性が先に行い、その後は自由に交替できる。鋸は営林署で用意したマドノコを使用し、30cm程度のヒバ丸太をトーナメント方式で速く伐り落とした方が勝ちというルールで実施している。事前に参加



写-13 木楯と木メダル

チームを募集し、今年も例年通り10チームの参加があった。そのうち県信用チームは女性のみで出場し、大いに盛り上がりを見せてくれた。入賞は上位三チームのほかに、ハッスル賞としてよく奮闘したチームに、ユーモア賞として会場を沸かせたチームに職員手作りの木製の楯と同じく手作りのヒバ製のメダルを贈っている。昨年からはじめた『子供与作選手権大会』は個人戦で、10cm程度の杉小丸太を保育間伐用の腰鋸で伐り落とした時間を競うものであり、今年も10名が出場し、大いに会場を沸かせた。

このように産業祭りは一畧一品（手柴、ほだ木、木工品等）の生産・販売や『与作選手権大会』を始めとする各種催しに、署内・現場とも一丸となって取り組んでおり、営林署の行事の中で『植樹祭』『森林浴ウォーク大会』と並んで、一大イベントの一つとなっている。

4 アンケート調査

11月8日の産業祭り当日、別紙様式にてアンケート調査を行った。集計結果は別表の通りであり、回答者のほとんどは村内からの来場者ではあるが、設問4・5から『与作選手権大会』の知名度は高いことがわかった。また、回答者の約半数が参加したことがあり、楽しんでもらっていることも設問6・7から伺える。さらに設問8・9から、観客としての立場からも楽しんでもらっていて、半数が出場してみたいと思っており、関心の高さが伺える。設問10の競技内容の時間については、「短すぎる」という答えはほとんどなく、「長すぎる」という答えが3割に達している。また丸太についても「細すぎる」という答えはなく「太すぎる」という答えが3割を越えている。このことから、丸太が太くて伐っている時間が長く、自分で出場するには体力的に自信がないという印象を与え、設問8の参加したくないという理由で「大変そうだから」という意見につながるものと推察される。このあたりを改善すれば参加者の増加につながり、この大会ももっと盛り上がるのではないかとと思われる。

設問11の今後の継続についても、ほとんどの人が継続を希望しており、産業祭りのメインイベントとして完全に定着していることがわかる。また、設問12で継続していく場合、どのようなところに留意したらよいか、意見を聞いたところ「女性の伐っている時間を短く」とか「女性にハンディキャップを」というものがあった。これは競技規則で『競技開始は女性選手から、開始後1分間は交替できない』という規定があり、速いチームでは3分足らずで伐り終えることから出た意見であると思われる。競技規則は第1回大会から変わっておらず、最初の頃は鋸の扱いにも慣れておらず、時間もかかったものと推測されるが、慣れるに従い時間も短縮され、女性にかかる負担が大きくなったものと思われる。このようなことから競技規則の見直しの時期にきているのではないかと考える。そのほか、昨年からの子供との与作選手権大会を実施してきたが「大変よいことだ」「今後も続けてほしい」という意見や、子供さんから「子供にも大人と同じような楯がほしい」という意見があり『与作選手権大会』に寄せる関心や期待が大きいことが伺える。

設問13の営林署の業務については『あまり知らない』が、営林署の存在についてはほとんどすべての人が知っていた。これは村にある数少ない公共機関であるということもあるが、これらイベント等を通し地域の一員として認識されているものとする。

『与作選手権大会』アンケート

		監野沢営林署		
1	どちらからいらっしゃいましたか。	村内	村外	
2	年齢は	()		
3	性別は	()		
4	監野沢村産業祭りのイベントとして、監野沢営林署主催の『与作選手権大会』があることを知っていますか。	はい	いいえ	
5	『与作選手権大会』は監野沢が元祖であることを知っていますか。	はい	いいえ	
6	『与作選手権大会』に参加したことがありますか。	はい	いいえ	
7	『与作選手権大会』に参加しての感想は。(6で『はい』と答えた方)	面白かった	まあまあ面白かった	面白くなかった
8	『与作選手権大会』に参加してみたいと思いますか。	はい	いいえ (理由:)	
9	『与作選手権大会』を見ての感想は。	面白かった	まあまあ面白かった	面白くなかった
		ご協力ありがとうございました。		
10	競技について			
	(1) 時間が	長すぎる	適当である	短すぎる
	(2) 丸太が	太すぎる	適当である	細すぎる
	(3) 出場者が	多すぎる	適当である	少なすぎる
	(4) 出場メンバーについて	現状のまま(女1男2)でよい 覆えた方がよい		
	(5) (4)で『覆えた方がよい』と答えた方へ、どのように変えたらよいですか。	()		
11	『与作選手権大会』も今回で12回目を迎えますが、今後も継続して行った方がよいですか。	はい	いいえ	どちらともいえない
12	継続していく場合、どのようなことに留意したらよいかご意見ご希望をお知らせください。	()		
13	監野沢営林署について			
	(1) 監野沢村に営林署があることを	知っている	知らない	
	(2) 営林署の業務について	よく知っている	あまり知らない	全く知らない
	(3) 営林署へのご意見ご要望がありましたらお知らせください。	()		

図-1 アンケート回答用紙

『与作選手権大会』アンケート調査集計結果

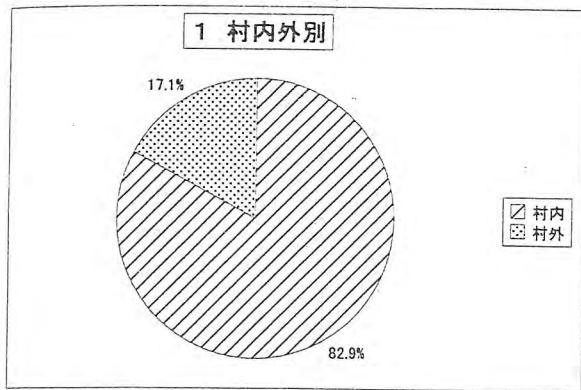


表-1

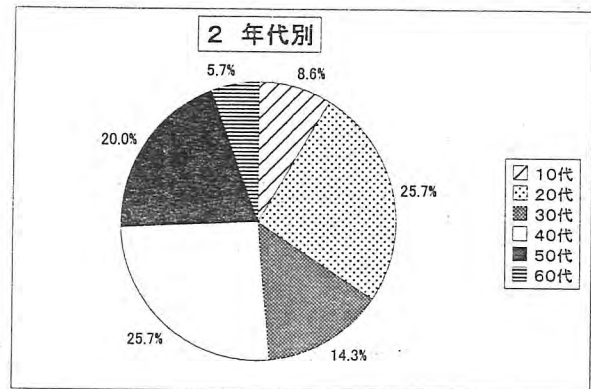


表-2

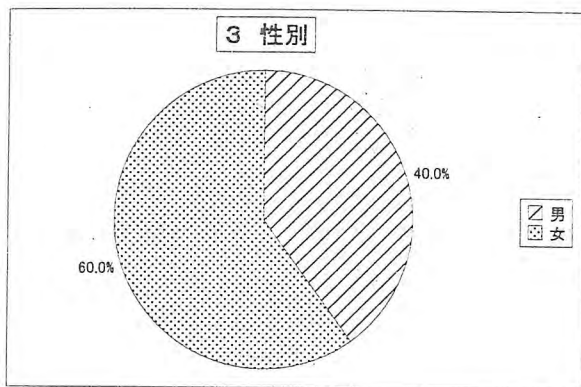


表-3

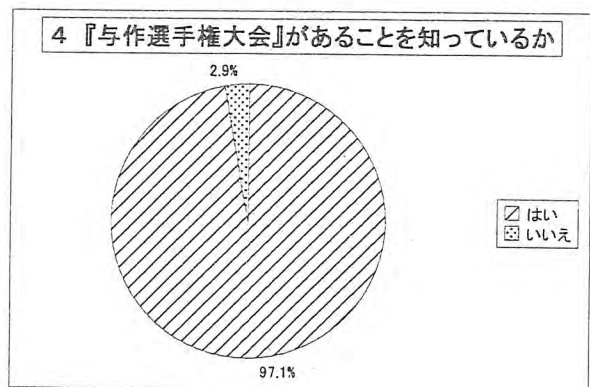


表-4

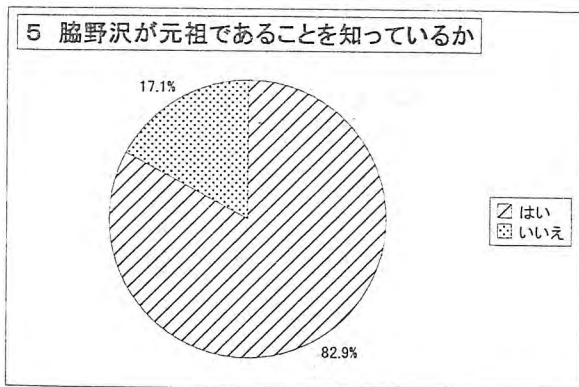


表-5

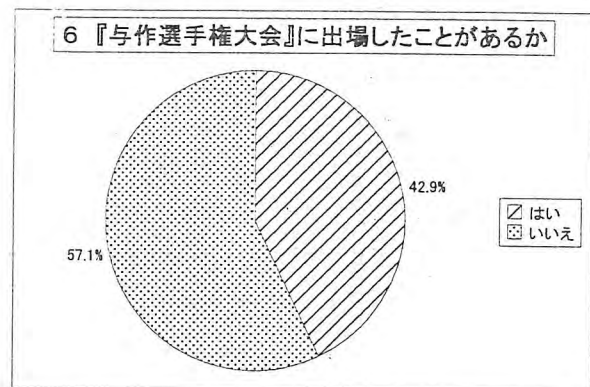


表-6

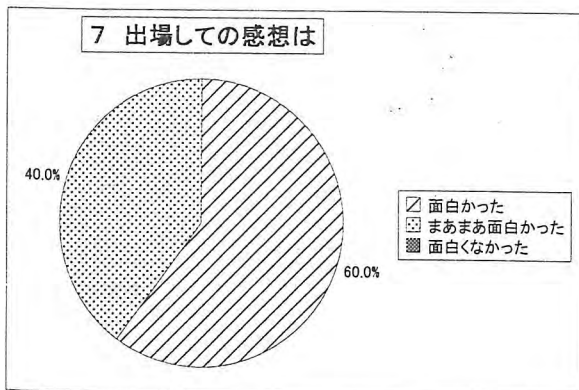


表-7

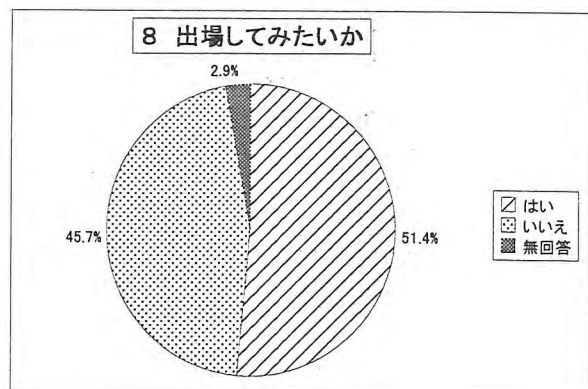


表-8

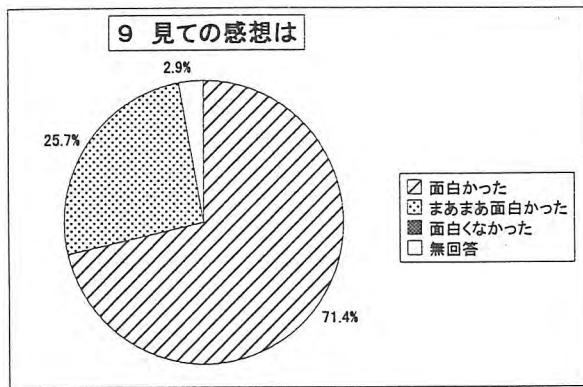


表-9

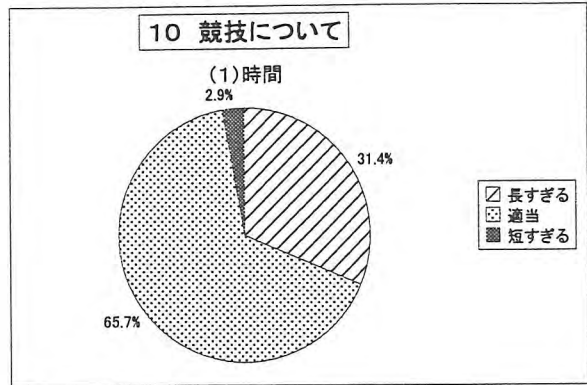


表-10

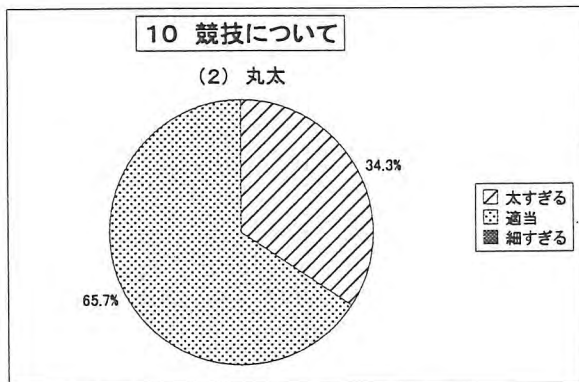


表-11

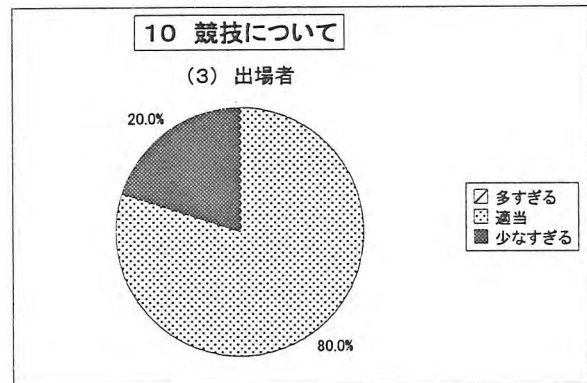


表-12

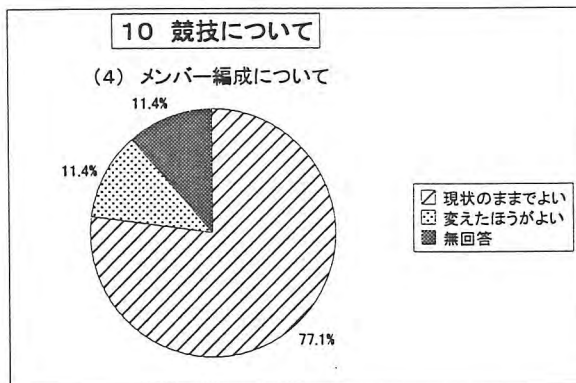


表-13

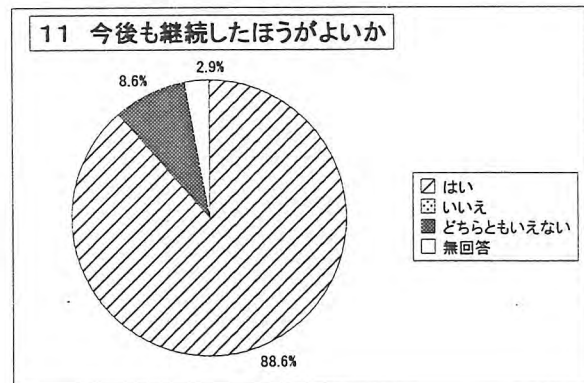


表-14

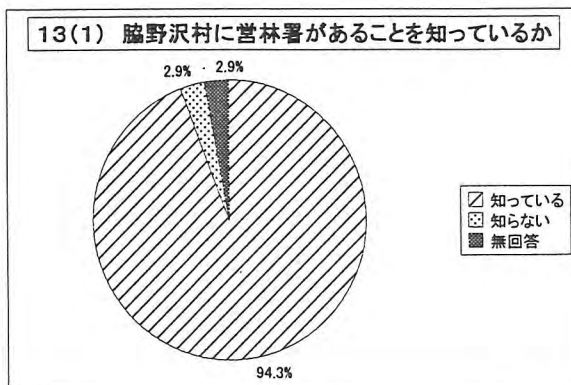


表-15

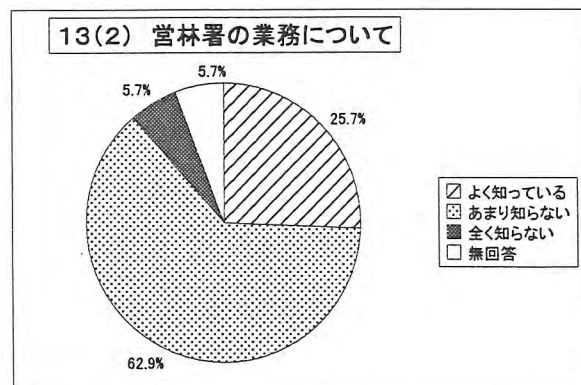


表-16

5 今後の課題

これまでのイベントへの取り組みについても様々な問題点があり、その解消が今後の課題となっている。その課題をいくつか挙げてみる。

(1) 振替休日の対応

これまで参加・協力・実施してきたイベントをみると、そのほとんどが日曜日など休日に当たっている。これは人を多く集めようというイベントの性質上仕方のないことだが、その後の振替休日のやりくりに苦慮しており、調整が必要である。

(2) 『与作選手権大会』の競技規則見直し

前段でも述べたが、『与作選手権大会』の競技規則が実状に合わなくなってきていることから、アンケート調査で寄せられた意見を参考に、地域等からの助言を得ながらももう少し柔軟性を持たせた競技規則の見直しが必要であると考えている。

(3) 『与作選手権大会』継続

アンケート調査からも『与作選手権大会』を継続してほしいという意見が多数あるが、職員数が減少傾向にある中で、営林署のみでの対応は年々厳しくなるものと思われることから、今後は村等からの協力も得ながら地域ぐるみでの取り組みが必要であると考えている。

これらのほかに細かな問題点はあるが、その都度地域からの助言や協力を得ながら、一つひとつ解決していきたいと考えている。

6 おわりに

これらの取り組みから、イベントを通して営林署と地域との良好な人間関係が形成されていると理解している。今後取り組まなければならない課題も多々あると思われるが、今回行ったアンケート調査の貴重な意見を参考に、地域との対話の中で一つひとつ解消しながら、より一層地域への定着を図っていきたいと考えている。